

## 2021 年度事業報告

2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日まで

### 1. 定時会員総会に関する事項

2021 年 6 月 15 日、日本アクチュアリー会 大会議室にて会員総会を開催し、

- ・ 2020 年度 事業報告の件

を報告し、

- ・ 第 1 号議案 2020 年度 貸借対照表及び正味財産増減計算書並びに財産目録の承認の件
- ・ 第 2 号議案 理事及び監事の選任の件

を諮り、原案どおり承認された。

#### <新型コロナウイルス感染症に関する対応>

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、会員の総会会場への来場を抑制するとともに、議案書を当会 HP の会員専用ページへ掲載し、電磁的方法での議決権行使の活用を推奨した。(議決権行使者は 3,764 名、うち 3,466 名が電磁的方法による議決権行使によるもの。)

### 2. 会員の異動状況

本年度の会員の異動は、法人会員については入会 1 法人、個人会員については入会 302 名、退会 177 名があり、2022 年 3 月末の会員数は、下表のとおりとなった。

正 会 員	2,000 名
準 会 員	1,405
研 究 会 員	2,092
小 計	5,497
法 人 会 員	108 法人
合 計	5,605 名・法人

### 3. 事業報告

#### [A. 試験関係]

##### (A1) 資格試験の実施

2021 年 12 月 13 日、14 日及び 15 日の 3 日間、東京 (TOC 五反田) 及び大阪 (天満研修センター) において実施し、2022 年 2 月 15 日に結果発表を行った。

第一次試験の総受験科目数は 3,365 科目、うち合格科目数は 873 科目であり、その結果、新たな基礎科目全科目合格者数は 206 名であった。

第 1 次試験 (基礎科目)	数学	生保数理	損保数理	年金数理	会計・経済・ 投資理論
受験者数 (人)	928	568	658	577	634
合格者数 (人)	115	162	209	275	112
合格率	12.4%	28.5%	31.8%	47.7%	17.7%

第二次試験の総受験科目数は 1,009 科目、うち合格科目数は 174 科目であり、その結果、(基

礎科目も含めた) 新たな全科目合格者数は 83 名であった。

第 2 次試験 (専門科目)	生保 1	生保 2	損保 1	損保 2	年金 1	年金 2
受験者数 (人)	335	303	134	107	60	70
合格者数 (人)	59	47	22	26	6	14
合格率	17.6%	15.5%	16.4%	24.3%	10.0%	20.0%

#### <新型コロナウイルス感染症に関する対応>

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、試験会場における受験生の検温や机・椅子の消毒、試験室での座席間隔の確保等の感染予防対策を実施するとともに、受験生への感染予防対策等に関するお願いを実施した。

また、2022 年度資格試験より紙による試験方式から、CBT (Computer Based Testing : コンピューターを利用した試験) へ移行することとし、運営概要 (予定) について、一般公開ホームページにて公表した。

#### (A2) CERA 試験の実施

日本の CERA 試験は、英国アクチュアリー会 ( Institute and Faculty of Actuaries; 以下、IFoA という ) の SP9 ( Enterprise Risk Management Specialist Principles ) をベースとしているが、IFoA では 2021 年 9 月期の SP9 試験がオンライン試験で実施されることを踏まえ、当会の CERA 試験についても、2021 年 9 月 28 日に IFoA のオンライン試験プラットフォームを利用した形で実施した。2022 年 1 月 17 日に結果発表が行われ、受験者数は 58 名、うち合格者は 14 名 (合格率 24.1%) であった。2022 年 3 月末の CERA 資格者数は 105 名となった。

#### [B. 教育・研修・研究発表関係]

##### (B1) アクチュアリー講座等の実施

アクチュアリー基礎・特論講座を、2021 年 5 月 18 日から 2021 年 11 月 1 日の期間で実施した。受講状況等は次のとおり。

	科目	受講者数
基礎講座 (6 グループ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 確率論、統計論、確率論演習、統計論演習 (43 名)</li> <li>・ モデリング (47 名)</li> <li>・ 損保数理 (93 名)</li> <li>・ 会計学、経済学、投資理論 (65 名)</li> </ul>	左記の通り
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生保数理、生命表 (76 名)</li> <li>・ 年金数理 (94 名)</li> </ul>	
特論講座 (7 科目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 危険選択論</li> <li>・ 保険監督法</li> <li>・ ファイナンス数理</li> <li>・ 社会保険論</li> <li>・ 年金実務法規</li> <li>・ リスクマネジメント論</li> <li>・ 人口論</li> </ul>	35 名

※2021 年度より基礎講座について科目グループごとの受講を可能とした。

アクチュアリー追加演習講座を、2021 年 9 月 22 日から 2021 年 11 月 26 日の期間で実施した。受講状況等は次のとおり。

	科目
追加演習講座 (4 科目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生保数理演習 (30 名)</li> <li>・ 年金数理演習 (45 名)</li> <li>・ 損保数理演習 (46 名)</li> <li>・ モデリング演習 (17 名)</li> </ul>

ERM 関連の専門知識・技能を学ぶことを目的とした、アクチュアリー専門講座（ERM）を、2021年7月19日から2021年9月13日の期間で実施した。受講状況等は次のとおり。

	科目	受講者数
専門講座 (ERM) (3科目)	・ファイナンス数理(※) ・リスクマネジメント論(※) ・ERM ※特論講座と共通科目	27名

アクチュアリーの業務領域に有益なデータサイエンス関連の専門知識・技能を、PCを用いた実習により習得することを目的とした、アクチュアリー専門講座（データサイエンス）を2021年12月18日から2022年3月19日の期間で実施した。また、一定期間（2022年2月7日～4月30日）、録画された講義を視聴可能とした、オンデマンド講義を今年度新設した。受講状況は次の通り。

	内容	受講者数
専門講座 (データサイエンス) (前編・後編)	<p>【前編】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Rの導入と簡単な回帰モデル</li> <li>・線形回帰モデル</li> <li>・線形判別分析</li> <li>・決定木</li> <li>・一般化線形モデル1</li> <li>・一般化線形モデル2</li> </ul> <p>【後編】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予測モデリングの基本手順</li> <li>・探索的データ解析(EDA)</li> <li>・予測モデリング用のモデル例</li> <li>・モデルの選択・評価の方法</li> <li>・回帰問題での実践(GW)</li> <li>・分類問題での実践(GW)</li> </ul>	22名
オンデマンド 講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生存時間解析の基礎</li> <li>・主成分分析</li> <li>・因子分析</li> </ul>	

#### <新型コロナウイルス感染症に関する対応>

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、すべての講座について、オンライン形式での開催とした。今年度より、講義から1週間程度、講義録画動画の配信を実施した。

#### (B2) 日本アクチュアリー会年次大会の開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、例年2日間での対面開催としていたところ、昨年に引き続きオンライン形式での開催とし、1日間（2021年11月5日（金））に集約した。

<午前の部> ・共通セッション（理事長挨拶、祝辞、プレゼンテーション（ICA2023 シドニーについて ～ICA2026 東京に向けて～ Andrew Boal 氏（ICA2023 組織委員長））

・論文発表 / プレゼンテーション / パネルディスカッション / Open Discussion Forum

<午後の部> ・特別講演（企業価値経営の変革 ～Corporate Value Transformation～ 伊藤 邦雄 氏（一橋大学 CFO 教育研究センター長））

・論文発表 / プレゼンテーション / パネルディスカッション / Open Discussion Forum

論文発表：15編、プレゼンテーション：7セッション、パネルディスカッション：6セッションが行われた。なお、配信された動画は、大会終了後、e-ラーニングシステムに掲載され、再視聴も可能とした。

(B3) IT 研究大会の開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、2022年2月18日、第61回IT研究大会をオンライン形式で開催した。IT研究大会専用ホームページへの文書等の掲載（最新IT技術調査・研究、技術グループによる新技術紹介）や動画配信（IT研究会第1グループから第5グループによる活動報告）とし、動画は配信後もe-ラーニングやYouTube（限定公開）にて一定期間の視聴を可能とした。

(B4) 例会の開催

2021年度は次の例会を開催した。詳細は次のとおり。

第1回 (2021.5.26) [その他]	(Part1)「COVID-19 克服への医学的知見と将来動向」 (Part2)「COVID-19 がグローバルな生命保険商品に与える影響- ポストコロナ時代に定着する変化は？」	(Part1) 長岡 司 氏 (MD, Ph.D RGA リインシュアランスカンパニー 日本支店 医務部長) (Part2) Daniel Lyons 氏 (Vice President, Business Initiatives Leader RGA International Corporation)
	(第1回再放送) 6月9日	
第2回 (2021.6.18) [生命保険]	欧州の個人年金市場に関する最新動向および長寿リスクに関連する死亡率のデータ分析に関する実務	Ms. Christine Dahlke (Senior Actuary, Life Department 6, Hannover Rück SE) Dr. Torsten Franz (Assistant Actuary, Life & Health Data Analytics, Hannover Rück SE) 反橋 拓朗 氏 ハノーバー・リー・サービス株式会社 シニア・マネジャー
	(第2回再放送) 7月2日	
第3回 (2021.8.5) [その他]	ポストコロナを見据えた債券投資の理論と実践	井上 健太 氏 (三菱UFJモルガン・スタンレー証券シニア債券ストラテジスト/シニア・マーケットエコノミスト)
	(第3回再放送) 9月2日	
第4回 (2021.9.7) [その他]	行動を科学する ~データが生まれる瞬間~	佐藤 聡美 氏 (聖路加国際大学公衆衛生大学院 准教授)
	(第4回再放送) 9月21日	
第5回 (2021.10.1) [その他]	英語論文執筆の実際	武島 智美 氏 (ミリマン・インク コンサルタント)
	(第5回再放送) 10月15日	
第6回 (2021.10.28) [生命保険]	がんの診断と治療の進歩~引受査定および保険金支払査定への影響~	Dr. Andreas Armuss ミュンヘン再保険会社 シンガポール支店 チーフ メディカルオフィサー
	(第6回再放送) 無し	

第7回 (2021. 11. 11) [生命保険]	Part1 気候変動が生命保険と医療保険に与える影響 Part2 損害再保険に対する物理的な気候変動リスクの影響の評価	Irene Merk 博士 (Emerging Risks Ambassador、SCOR SE) Junaid Seria 氏 (Head of Analytics & Governance、SCOR SE)
	(第7回再放送) 11月24日	
第8回 (2021. 11. 25) [年金・退給制度]	EBPMと現実の政策立案 【日本年金数理人会との共催企画】	武藤 憲真 氏 (社会保険診療報酬支払基金 共同開発執行役)
	(オンデマンド配信) 12月9日～12月22日	
第9回※ (2021. 12. 7) [プロフェッショナリズム]	※プロフェッショナリズム研修(継続教育)と共同開催 (B9)①参照)	
	(第9回再放送) 12月21日	
第10回 (2022. 3. 23) [損害保険]	世界のインシュアテックの動向ーアクチュアリー視点	Edward PLOWMAN (SOMPOホールディングス株式会社 グループチーフアクチュアリー)
	(第10回再放送) 4月6日	

<新型コロナウイルス感染症に関する対応>

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、すべてオンライン形式での開催とした。また、当日参加が難しい会員向けに例会当日の録画内容の再放送を実施した。

(B5) 関西委員会分科会の開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、オンライン形式で分科会発表会を行うこととし、3月18日、3月25日の2日間録画配信を行った。

(2022. 3. 18, 3. 25) [生保・年金・リスク管理]	今年度の分科会活動報告	保険計理分科会 年金分科会 ERM分科会
---------------------------------------	-------------	----------------------------

(B6) ムーンライトセミナーの開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、オンライン形式とし、2021年11月から2022年2月にかけて次の4つのテーマで開催した。

IFRS第17号の財務諸表を先取りして考えてみよう	土井 和行 君、朝田 朋憲 君、 武田 真興 君 (ウイリス・タワーズワトソン)
「経済価値ベースのソルベンシー比率(ESR)の分析」をやってみよう	大川 篤 君 (ミリマン)
ひみつの機械学習	宮崎 亮 君 (有限責任監査法人トーマツ)
損保アクチュアリーの実務課題を考える	セミナー部会

(B7) 関西セミナーの開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、オンライン形式とし、2022年2月16日に次のテーマで開催した。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ COVID 19 のワクチン接種政策に関する考察</li> <li>・ ニューラルネットワークを利用した死亡率の将来予測</li> <li>・ コロナ危機が生命保険会社に与える影響～死亡率変動と収支に関する考察～</li> <li>・ 長寿リスクへの備えとしての Multideath Fair Tontine Annuity の有用性の考察</li> <li>・ 日本の自動車保険需要に影響を与える要因の考察</li> <li>・ ESG 株式投資に関する一考察 ～非財務情報としての環境ファクターと株価への影響</li> </ul>	<p>京都大学大学院理学研究科 保険ゼミ生</p>
---	-------------------------------

(B8) e-ラーニングの充実

e-ラーニングに次のコンテンツを公開した。

- ・ 2020 年度第 2 回例会「IFRS 第 17 号最新情報—国際会計基準審議会（IASB）による 2020 年 6 月の公表を受けて」 ※動画配信
- ・ アクチュアリー行動規範改正案およびアクチュアリー行動基準制定案について
- ・ 2019 年度第 1 回例会「保険：顧客エンゲージメント、オンライン、そして引受査定の変容」
- ・ 2019 年度第 2 回例会「データサイエンスの成功事例」
- ・ 2019 年度第 3 回例会「2019（令和元）年公的年金財政検証について」
- ・ 2019 年度第 4 回例会「医療分野での AI の活用—生命保険業界への影響」
- ・ 2019 年度第 6 回例会「外国債券投資の理論と実践」
- ・ 2020 年度第 4 回例会「予測モデリングにおける誤差評価に関する研究」 ※動画配信
- ・ 2020 年度第 5 回例会「全世代型社会保障検討会議における改革の検討のこれまでの成果と今後の方向性」 ※動画配信

(B9) プロフェッショナルリズム研修の実施

① プロフェッショナルリズム研修（継続教育）を、2021 年 12 月 7 日に次の内容で実施した。  
（再放送：2021 年 12 月 21 日）

- ・「組織人のバイアスと行動選択」 水村 典弘 氏（埼玉大学大学院教授）

② プロフェッショナルリズム研修（初期教育）を、2022 年 2 月 24 日に実施した。この研修は正会員資格の認定要件である。

- ・ アクチュアリーとプロフェッショナルリズム概論 片寄 郁夫 君（りそな銀行）
- ・ 日本アクチュアリー会行動規範 宮本 淳 君（第一フロンティア生命）
- ・ 生保のプロフェッショナルリズム 渡部 仁 君（日本生命）
- ・ 損保のプロフェッショナルリズム 金子 洋巳 君（損保ジャパン）
- ・ 年金のプロフェッショナルリズム 堀田 晃裕 君（有限責任監査法人トーマツ）
- ・ ケーススタディー 榎原 昭仁 君（りそな銀行）

<新型コロナウイルス感染症に関する対応>

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、オンライン形式での開催とした。

(B10) CERA に関する研修等の実施

2022 年 1 月 29 日、CERA 試験の合格者を対象に、ERM に関する日本特有の状況や ERM のケーススタディについて講義やグループ学習を実施した。この研修は CERA 資格の認定要件であ

り、受講修了者は 9 名であった。

#### (B11) 研究集会の実施

テーマに沿った先端的な研究を題材に会員と研究者・大学院生などが討論し論文の深掘を行うことを目的とし、当会主催（JARIP との共催）にて、2021 年度研究集会を 2021 年 12 月 4 日に行った。プログラムはきたる 2023 年および 2026 年 ICA に向けて、発表、論文執筆に興味を持っている会員が新たな研究テーマを発見することを期待して構成された。また新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、オンライン形式での開催とした。

### 〔C. 調査・研究活動〕

#### (C1) 標準死亡率諮問委員会の開催

第 27 回標準死亡率諮問委員会が、2021 年 11 月 8 日（月）に開催され、「生保標準生命表 2018（死亡保険用）」、「第三分野標準生命表 2018」及び「生保標準生命表 2007（年金開始後）」について、2022 年度に継続適用することが了承された。

#### (C2) アクチュアリー行動規範の改正・行動基準の制定

アクチュアリー業務・役割が複雑化・多様化する中、専門職能者として社会の負託に応えるため、アクチュアリー行動規範について今日の見直しを行い、2021 年 9 月 14 日に改正した。また、見直しの一環として、会員が行動規範を解釈する際の助けとなるものとして、また様々な業務を行う上での一般的な基準として、同日に「アクチュアリー行動基準」を制定し、2021 年 9 月 15 日に一般公開ホームページにて公表した。それぞれ 2022 年 4 月 1 日より施行する。

#### (C3) 実務基準の整備

- ① 新たな実務基準を制定もしくは一部の实務基準を改定する際の規則が十分に整備されていない状況を鑑み、新規・既存の全ての実務基準を網羅する包括的な制定及び改定手続きに関する規則として「実務基準の制定および改正手続きに関する規則」を 2021 年 5 月 12 日に制定した。
- ② ISAP1 の 2.10.6.e および 3.2.2.j について、専門業務における当該部分の解釈を明確化すべく、IAA の Actuarial Standards Committee (ASC) 委員長との電子メールによる対話を行い理解が進んだことから、2021 年 11 月に「IAS19 に関する数理実務基準」の改定草案を公表し、意見募集を行った。意見が提出されなかったため、原案を最終案として 2021 年 12 月にこれらの内容を反映するための改定を行った。

#### (C4) 経済価値ベースのソルベンシー規制・会計基準等への対応

- ① 2019 年度より、金融庁フィールドテスト仕様書において保険負債検証レポートの提出が求められるようになったことに関連し、保険負債の妥当性検証の検討を行うため、金融庁より連携された保険負債評価の妥当性を確保する上での様々な課題意識を踏まえ、「保険負債の計算手法及びモデルに関する技術的検討」「検証レポートに関する例示共有」につき検討を実施し、その検討結果を 2021 年 6 月に一般公開ホームページにて公表した。
- ② 2021 年 6 月に金融庁から公表された「経済価値ベースのソルベンシー規制等に関する検討状況等について」において、金融庁と日本アクチュアリー会等が連携して検討することが想定される 1 つの例として、「検証レポートの記載要領・雛形」が示されたこと等を受け、「保険負債の検証レポートの記載要領」、および「記載要領」を作成する上での考え方の整理を

記載した「記載要領の背景」を作成し、2022年3月に一般公開ホームページにて公表した。

(C5) 保険商品数理に関する検討

生保商品特別検討WGにおいて、2022年2月及び3月、「持続可能なビジネスモデル（ポストコロナ、医療・予防に関する顧客の意識変化）」をテーマとしたオンライン形式での意見交換会を実施した。

(C6) 国際会計基準・保険監督の国際基準への対応

国際会計基準及び保険監督の国際基準について、本会は、IAA（国際アクチュアリー会）の委員会活動への積極的な参画を通じて対応した。IAAは、国際的なアクチュアリー専門職団体として、IASB（国際会計基準審議会）及びIAIS（保険監督者国際機構）において行われている検討に関して、パートナーシップ契約等を締結し、アクチュアリアルな事項に関し助言等を行っている。

(C7) IAA教育シラバス改訂への対応

2021年より改訂後IAA教育シラバスが発効となることも踏まえつつ、将来の本会の試験・教育制度について、試験・教育企画委員会及び傘下のPT等にて対応を検討している。また、2022年度より「金融システム」「データとシステム」「アクチュアリアル・リスクマネジメント」の3分野において、2日間程度の研修を正会員の資格要件として行う想定として、2020年度に引き続き、2回目のトライアル研修を開催し、最終確認を行った。

(C8) 少額短期保険計理人の機能発揮に向けた取り組み

- ① 2021年6月、当会の会員が、少額短期保険業者の保険計理人としての活動において十分に機能発揮が行えるよう、専門的・技術的・実務的事項について検討し、その結果の共有等を行うことを目的として、「少額短期保険計理人関連検討PT」を新設した。
- ② 2022年3月に「少額短期保険計理人関連検討PT」における検討状況の中間報告の場として本会主催での少額短期保険業者の計理人による意見交換会を実施した。

(C9) 委員会等の活動

各委員会・部会・研究会・ワーキンググループ・プロジェクトチームにおいては、年度始に定めた目的・ミッションに基づく調査・研究などの活動を行い、その活動状況等を本会ホームページに掲載するとともに、調査・研究の成果としてまとめたものについては、会員専用のホームページ・会報別冊等を通じて公表した。

[D. 意見表明]

(D1) IAAのカウンシルでの投票（電子投票を含む）

- ① 2021年4月、IAAバーチャルカウンシル・ミーティングにおいて、すべての議案について、賛成として投票を行った。
- ② 2021年6月、IAAにおける投資方針の変更の承認について、賛成として投票を行った。
- ③ 2021年9月、IAAバーチャルカウンシル・ミーティングにおいて、エクアドルアクチュアリー会の正会員の承認、セクション規則の改正について、賛成として投票を行った。
- ④ 2021年12月、IAAカウンシル・ミーティング（アムステルダムとオンラインのハイブリッド）において、すべての議案について、賛成として投票を行った。
- ⑤ 2022年3月、IAAの電子投票（Pandemic SOI、Future Actuary SOI、委員長等の選任）に



において、賛成として投票を行った。

## [E. 国際関係]

### (E1) IAA 活動

- ① IAA に委員を派遣し、委員会活動に積極的に参画しており、そのうち委員会に関しては、吉村 雅明 君は Strategic Planning Committee に、河野 年洋 君が Actuarial Standards Committee に、藤澤 陽介 君が Enterprise & Financial Risk Forum に副委員長として、山田 龍太郎 君が General Insurance Forum に副委員長として、それぞれ参画している。
- ② ICA2026 を見据え、正会員の IAA への参画機会を増やしていくことを目的に、IAA フォーラム\* に 2021 年度を任期とし、オブザーバーを選任することとした。  
(\*Enterprise and Financial Risk, General Insurance, Pensions, Benefits and Social Security, Social Security Subgroup (SSSG), Data Analytics, Mortality)

### (E2) 2021 年度 東アジア・アクチュアリー講座 (ASEA) の開催中止

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、2021 年度の ASEA 講座は開催を中止することとした。

### (E3) 国際会議等への派遣等

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、対面形式での会議の開催は中止となり、次のとおりオンライン形式で開催されている。

- ① 2021 年 5 月 13 日 IAA バーチャル会議  
村田 富生 君、吉村 雅明 君、河野 年洋 君、重原 正明 君、中村 吉男 君、山田 龍太郎 君、藤澤 陽介 君、大内 稔 君
- ② 2021 年 12 月 3 日～5 日 Pilot Hybrid Council and Committee Meetings  
(Amsterdam, Netherlands)  
村田 富生 君、吉村 雅明 君、河野 年洋 君、重原 正明 君、中村 吉男 君、山田 龍太郎 君、藤澤 陽介 君、大内 稔 君  
※当会はオンラインで参加。
- ③ 2022 年 3 月 1 日 Asia-Pacific Ethics and Professionalism Seminar  
(Actuaries Institute (豪アクチュアリー会) 主催)  
大内 稔 君

## [F. 評議員会]

- (F1) 2022 年 2 月 25 日に第 33 回評議員会をオンラインにて開催し、2021 年度事業報告、2022 年度事業計画 (案) について審議した。

## [G. 学術活動]

- (G1) 京都大学より保険数理及び年金数理の講師派遣の依頼があり、浅野 淳 君 (住友生命)、齊藤 弘行 君 (住友生命)、中村 吉男 君 (住友生命)、片寄 郁夫 君 (りそな銀行)、徳田 裕也 君 (大同生命)、豊留 健 君 (日本生命)、恒川 啓之 君 (日本生命) 及び南 嘉博 君 (日本生命) を派遣した。

(G2) 大阪大学より保険数理の講師派遣の依頼があり、佐々田 明彦 君（住友生命）、武村 昌紀 君（大同生命）及び柳戸 裕二 君（日本生命）を派遣した。

(G3) 神戸大学より保険数理の講師派遣の依頼があり、松本 浩司 君（住友生命）を派遣した。

(G4) 早稲田大学より生保数理、年金数理及び損害保険の理論と実務の講師派遣の依頼があり、安達 良喜 君（明治安田生命）、田中 浩一 君（明治安田生命）、浜田 淳一 君（明治安田生命）、荒井 昭 君（明治安田生命）、関口 健太郎 君（E-オングループジャパン）、藤澤 陽介 君（住友生命）、塩島 薫 君（あいおいニッセイ同和）、星野 明雄 君（日新火災）、青木 拓郎 君（損害保険ジャパン）、堀田 周平 君（三井住友海上）を派遣した。

(G5) 2021年5月15日、早稲田大学大学院会計研究科において、アクチュアリーに興味のある学部生・大学院生を対象としたキャリア支援セミナーが開催され、学術活動の一環として、大内 稔君（事務局長）を派遣した。

(G6) 2021年6月10日、関西大学システム理工学部数学科において、学部3回生を対象にアクチュアリーについて紹介するキャリアガイダンスがオンライン形式で開催されることとなり、学術活動の一環として、佐々田 明彦 君（関西委員会）を講師として派遣した。

#### [H. 表彰関係]

(H1) 2020年度資格試験理事長賞及び成績優秀者

① 理事長賞

堀田 智基 君（プルデンシャル生命）に理事長賞を授与した。

② 科目別成績優秀者

数学1名、生保数理4名、損保数理1名、年金数理1名、会計・経済・投資理論2名、生保1 1名、生保2 1名、損保2 1名の成績優秀者を表彰した。

(H2) 優秀論文の表彰

① 2021年11月5日、年次大会において、次の優秀論文を表彰した。

「Cramér-Lundbergモデルにおける生命保険会社の公平性を踏まえた契約者配当政策」  
下山 法之 君（富国生命保険）

② 2022年2月18日、IT研究大会において、次のIT関係優秀論文を表彰した。

「情報銀行の設立等の最新動向を踏まえた保険会社でのデータ活用」

（IT研究会第4グループ）

「サステナビリティを踏まえた保険業界におけるDX推進」

（IT研究会第3グループ）

#### [I. 広報・出版活動]

(I1) 情報提供機能の充実

① 本会会員ホームページについて、2021年度より、「スマートコア」（クラウド型パッケージシステム）に移行した。

② 2021年8月に、本会ホームページの「合格者の声」について、2021年度版としてリニュー

ーアル（紹介メンバーの入替え）を行った。

- ③ 2022年1月22日、学生を主な対象としたアクチュアリーセミナーを、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、オンライン形式にて開催した。参加者は59名であった。
- ④ 一般公開ホームページについて、2022年3月25日にリニューアルを実施した。

(I2) 関連協会の事業への協力活動

- ① 公益財団法人 数学オリンピック財団が主催する公益目的事業「IMO2023 日本大会」等への協賛を実施した。
- ② 公益財団法人 日本数学検定協会が主催する公益目的事業「数学甲子園 2021」の本選に協賛する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

(I3) 会報等の刊行

① 会報

第 74 号	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 予定解約率を用いた商品の収益性検証に関する一考察</li><li>・ 状態空間モデルを用いた死亡率モデルの拡張</li><li>・ ネルソン・シーゲルモデルに基づくイールドカーブの現実確率下における変動性のモデル化の新手法</li><li>・ 経験統計データの信頼度を考慮した料率較差係数の設定について</li></ul>
--------	---

② 会報別冊

第 289 号	<p>&lt; IFRS 第 17 号「保険契約」と再保険～2020 年 6 月修正を反映～&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 第 I 部 IFRS 第 17 号における再保険の取扱い</li><li>・ 第 II 部 IFRS 第 17 号と再保険</li><li>・ 付録（2020 年 6 月最終基準書の設例 12C(再保険契約の当初測定及び事後測定)の計算シート)</li></ul>
第 290 号	<p>「アクチュアリーにとっての気候関連リスクの重要性&lt;2020 年 9 月&gt;」&lt;外国文献研究会&gt;</p> <p>1. はじめに 2. 気候関連リスク 3. 保険数理モデリング 4. 商品管理 5. リスク・資本管理 6. 投資運用業務 7. ディスクロージャー 8. アクチュアリーへの示唆 9. 次のステップ</p> <p>付録：気候関連リスクに関連する世界の資本市場のイニシアチブ</p>
第 291 号	<p>&lt; 第 61 回 IT 研究大会報告 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 「ゼロトラスト」を前提としたサイバーセキュリティ対策</li><li>・ IT 部門とユーザー部門のすみわけとこれから必要となる IT 人材</li><li>・ 保険会社標準の API 基盤</li><li>・ 新たな開発手法・技術等を活用した金融・保険会社による「新たな価値・サービス」の提供</li><li>・ ニューノーマル下における保険会社の IT 戦略</li></ul>

### ③ アクチュアリージャーナル

第 115 号	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ASTIN Bulletin Abstracts (ASTIN 関連研究会翻訳)</li> <li>・ 2020 年度 AFIR 関連研究会 活動報告</li> <li>・ 2020 年度 関西委員会分科会活動報告</li> <li>・ 2020 年度 ムーンライトセミナー報告</li> <li>・ 報告 数学オリンピックについて</li> <li>・ 書評 Python による医療データ分析入門 -pandas+擬似レセプト編- (データサイエンス関連基礎調査 WG)</li> <li>・ 2020 年度 新 CERA 資格者</li> <li>・ 2020 年度 継続教育制度履修目標達成者</li> <li>・ アクチュアリーリレートーク (連載第 16 回)</li> </ul>
第 116 号	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2020 年度 第 8 回例会報告</li> <li>・ 論文 ペテルスブルグのパラドクス再考 -その数理モデルの問題点-</li> <li>・ 2020 年度 継続教育の履修状況について</li> <li>・ 2021 年度 委員会・部会・研究会・ワーキンググループ・プロジェクトチーム名簿</li> <li>・ 2020 年度 資格試験合格者発表</li> <li>・ アクチュアリーリレートーク (連載第 17 回)</li> </ul>
第 117 号	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 寄稿「アクチュアリー会 会報 歴史の散歩道」</li> <li>・ 研究論文 「再保険講義：対話で紐解く再保険プライシングの本質」</li> <li>・ アクチュアリーリレートーク (連載第 18 回)</li> </ul>
第 118 号	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 報告 当会会員の論文執筆支援の取組みに向けたアンケート結果</li> <li>・ 報告 2021 年度 アクチュアリーセミナー</li> <li>・ アクチュアリーリレートーク (第 19 回)</li> </ul>
特別号 ＜リスクと保 険第 18 号 >	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講演 経済価値ベースのソルベンシー規制の検討状況に関するフォローアップ</li> <li>・ 論文 健康保険データに基づく糖尿病重症化の予測モデリング -新たな引受査定ルールの構築を目指して-</li> </ul>

④ 2021 年度資格試験問題集

⑤ 2020 年度年次大会報告集(オンライン開催)

2021 年度年次大会報告集(オンライン開催)

#### (I4) 広報誌の改訂

2021 年 6 月、個人会員数の業態別内訳・年次別推移および法人会員一覧の更新等の改訂を行った。